
入学式の日に浜辺で衝撃波を打つ

歯車るらら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

入学式の日に浜辺で衝撃波を打つ

【著者名】

Z8629C

歯車むり

【あらすじ】

ハイテンション・プリンス、コナタ様が繰り広げる臨海学校！

よく考へてもみる。このオレ様が、何で臨海学校なんかに来なきやならねえんだ。こういうのは、一般庶民の遊びだろ？ そこに、何で國の中でも超エリートの、このオレ様が来なきやならねえんだよ！ ぐだらねえ、あまりにもぐだらねえ！ 今すぐ城に帰つてつまらねえ家庭教師とにらめっこしてかくれんぼしている方がよっぽどマシだつつの。炎系の魔法なんて、使って爽快だぞ？ アフロだぞ？ あたり一面焼け野原だぞ？ そもそもだなあ、「最近の若い者は家に閉じこもつてばかりでいかん」とかいううたい文句を本気にしてやがつたクソ父上が悪いんだ。オレ様は、ハイパーオレ様だぜ？ 城になんか閉じこもつてねえよ！ 庭の迷宮でいつも救助隊ごつこしてんだからよー！

「あ、コナタ様も、いらしてくださいさつたのですね」「ん？ ああ、じきにオレ様も家を継ぐことになるんだ。今のうちにはいろいろな経験をつんで、立派な当主にならないといけないからな！」

「まあ、とても素敵なお志ですわ！ ほんと素晴らしい方がこの国の指導者になられるのですもの、今よりもっと素晴らしい国になりますわ」

そう言つてにひりと、それこそ花のよつに微笑むのは、下級貴族のベリーゼだ。ふわふわしたクリーム色の髪に、アメジストを思わせるような高貴な紫の瞳。白磁のような肌に白桃のみみたいな色した頬。唇は朝露に濡れたスミレ色……。その微笑みは、万年雪すらもすべて溶かしきつてしまつほど柔らかく暖かいんだ……。ああ……。ベリーゼがいるなら、ベリーゼのためなら、この臨海学校、絶対楽しんじゃうもんね！

で、臨海学校つてのは、何をするものなんだ？

うちに入校式が始まってしまった。オレ様ともなれば、一般庶民に混ざって整列するというようなことはしない。

が。

今回ほんとトクベツだ。何のかのと理由をつけて、ベリーゼの後ろをしつかりマーク。ああベリーゼ！ お前は後頭部すら芸術品のように美しい！！ つまらない教師どもの言葉も、お前の姿を見つめながらだと、まるで喜劇のセリフのよひに笑えてくる。ああベリーゼ。お前と浜辺でスキップしたい！

なんて考へてゐるだけに、入校式は終わった。これからはオレ様のめぐるめぐタイム。ベリーゼと砂浜で追いかけっこが始まるんだ……！

オレ様が勇んで顔を上げると、ベリーゼはすでに別の友人のところに走っていた。ああベリーゼ！ 罪な女だ！ で、オレ様はといふと、くだらねえ一般庶民のハナタレ坊主どもに囲まれている。おベリーゼ！ オレ様とお前のきらめくショウ・タイムはいつたいてごく……！

「ハナタ様あ、男子は遠泳ですよー。早く行きましょー」

「ハナタ様あ、着替えはこひらですよー」

「ハナタ様あ、」

「分かつてる……！」

何でこのオレ様が！ この、このオレ様がだなあ、こんなガキんちよどものお守りをしなきやならねえんだ！

水着に着替えたオレ様が、さつそと砂浜へ降りる。ベリーゼ、見てるか？ オレ様の磨き上げられたこの肉体を……。

「ハナタ様あ、」

「なんだ愚民！ 」

「がりーん、つて、感じですねえ」

オレ様は耳を疑つた。今、このバッド・ボーイは何と申した。

「ハナタ様の体、がりーん、つてオノマトペが、すじく似合いますねえ」

……、ガリーン。オレ様的には、‘がびーん’。……いや、そんなくだらないシャレは父上ですら言わない。

「……お前。名は何と言つ!?」

「え、グラジロティアゼギューソズノツサズと言いますが」

「長い! お前なんぞ、ベロンベロンで十分だ! 今日からお前はベロンベロンbだ!」

「え、それは人権侵害……」

「オレ様がホウリツ!」

「……はあ……」

「くう! ベロンベロンbめ。オレ様より立派な体格をしゃがつて!

！ 末代まで呪つてやるからな、ベロンベロンb! ああ、ベリーゼにはこんな惨めなオレ様は見られたくない。

「コナタ様。遠泳ですつて? 頑張つてくださいませ」

「ああ、もちろん全力を出し切る!」

こうこうときには、オレ様に声をかけてくれる。その麗しい微笑みだけで、オレ様は救われるのだが。

それから彼女は、またも幸せそうに微笑むと、また友人の元へ走り去つた。女子はカツターカー漕ぎらしい。ベリーゼの白く細く美しい腕が、紫外線にやられメラミン色素を大量に分泌し、なおかつどうでも良い筋肉に縁取られるのは我慢がならん。くうー、できる! とならオレ様がカツターを漕いでやりたい!

「コナタ様、そろそろ行きませんかあ

「うるさい! 分かつてんベロンベロンb!」

だがしかし。ベリーゼが見ていくといふのならまだしも、この国の未来を預かるこのオレ様が遠泳などといつぶだらないことに費やす時間があるというのがおかしいんだ。

浜辺にすらりと男子が並ぶ。その中に、このオレ様。清く正しい血筋を持つオレ様が混ざる。混ざつたところでその高貴さは一向に衰えることはない。むしろ逆。そう、お前たち愚民どもは、しょせんオレ様の引き立て役なのがさあ!

でもやはり、泳ぐのは面倒くさい。そこではたと氣づく。別に泳ぐ必要などないじゃないか。

「位置について……！」

教師の声が浜辺に響く。快晴の空は、海の青ほどに澄み渡つてゐる。俺たちの浜辺の向こうに岩場がある。その影にはカッターが浮かんでいるはず。そこにベリーゼもいるはず。よし。

「よーい……！」

オレ様は静かに呼吸をためる。全神経を、両手のひらに集中させる。手のひらが熱い！ 全身が無になるような感覚！ 周りの空気が、いつもと変わる！

「……スタート！！」

「…………はああああああああああああああああああああ！」

教師の声に、オレ様の華麗な声が重なる。そしてオレ様は！ なぜか空を飛んでいた。

はるか地上を見下ろせば、そこには大きな穴が開いている。巻き添えを食らつた愚民どもがもがいている。中にはベロンベロンも混ざつている。

オレ様の計算は、こうだつた。

衝撃波を後ろに飛ばしてその勢いで海へと前進する。威力からして、カッターからオレ様が見えるころに減速し、オレ様は自力で泳ぎだす。それをベリーゼが見つけ、「コナタ様、素敵！ ベリーゼをお嫁さんにして！」と来る。それを寛大な心を許可する……。

完璧なはずの計画は、砂浜に穴を開けただけで終わつた。あと、ベロンベロンもを含む庶民どもが砂に埋まつた程度。オレ様はもちらん華麗なる着地を決めた。

その日のうちに、オレ様が半ば強制的に城へと帰還させられた。まだ偶然にも浜辺にいたベリーゼには一部始終を見られていたし、すれ違いざま、青ざめた顔で「だつや……」と言われてしまつた。ああ、ベリーゼ！ オレ様の実力はこんなもんぢやねえぜ！

この由緒正しき血統のオレ様の力を持つてすれば、こんなビーチなど、瞬時に灼熱地獄に変えることができるんだぜ！

リメンバー・ミー！ リメンバー・ミー、ベリーゼ！ オレ様は、

この国を背負つて立つ漢なんだぜ！！

(後書き)

『いつ』『どこで』『何をした』という3枚のカードを組み合わせたもので、その結果がタイトルです。
お読みくださいありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8629c/>

入学式の日に浜辺で衝撃波を打つ

2010年10月8日15時17分発行